

ICEP 2024 ネパール

インターナショナル・コミュニティ・エンゲージメント・プログラム
International Community Engagement Program

活動報告書



2024年12月16日に訪問した、Food For Lifeにて

認定NPO法人ミュージック・シェアリング

〒102-0083 東京都千代田区麹町2丁目5-18 半蔵門ハウス601
TEL:03-6256-9733 E-mail:info@musicsharing.jp
<http://www.musicsharing.jp>

■ 認定NPO法人ミュージック・シェアリングとは

1992年より、成長過程にある子どもたちをはじめ、音楽に触れる機会の少ない人々に本物の音楽を届け、文化・教育・芸術の振興を目的とした活動を行っています。本物の音楽を通して豊かな心を育てるとともに、音楽家の社会貢献活動に対する理解を深める場を提供する音楽プログラムを実施しています。ミュージック・シェアリングの活動は全て、個人、法人からのご寄付・ご支援、助成金、企業協力によって成り立っています。

■ ICEP（インターナショナル・コミュニティ・エンゲージメント・プログラム）

五嶋みどりと、世界中からオーディションによって選ばれた若手演奏家3名がカルテットを組み、音楽を通じた教育支援と文化交流を行うプログラムです。毎年12月にはアジアの開発途上地域の学校・病院・施設などを訪れ、翌年6月には日本での「訪問プログラム」に参加、東京と大阪で「活動報告コンサート」を行います。これまでに、ベトナム（2006年）、カンボジア（2007年）、インドネシア（2008年）、モンゴル（2009年）、ラオス（2010年）、バングラデシュ（2012年）、ミャンマー（2013年）、ネパール（2016年）、インド（2017年）、ベトナム（2018年）、カンボジア（2019年）、ラオス（2023年）、ネパール（2024年）で実施しています。

ICEP 2つの目的

◆未知の文化体験をアジアに

訪問する地域の人々は、身近な場所でクラシック音楽の生演奏を聴く機会がほとんどありません。子どもたちをはじめ、参加する現地の人々に対しては、生のクラシック音楽に触れることで世界観が広がり、相互理解や向上心を育むことを目指しています。

◆世界各国の若手演奏家とともに活動

五嶋みどりとカルテットを組むのは、世界からオーディションにより選ばれた若手演奏家3名。オーディションでは録音審査以外に小論文やメールインタビューの課題を設け、総合的に評価しています。若手演奏家がICEPでの経験を通じて音楽のもたらす力について見つめ直し、音楽家としてできる社会貢献活動とはどのようなことなのか、実体験を通じて認識していきます。



2006年から始まったICEPの活動はアジア9カ国にて、14回実施。2024年のネパール訪問は8年ぶり、2度目の訪問となる。

日本での活動

ICEP訪問国での活動を日本国内に発信するため、アジアでのツアーの翌年、日本でカルテットを再結成しています。演奏とともに訪問国での活動について演奏家自身が語る「ICEP活動報告コンサート」の実施に加え、国内の学校・病院・施設等を訪問する「訪問プログラム」にも参加し、子どもたちや社会的に立場の弱い人たちにも本物の音楽を届けます。



■ 訪問国

ネパール Nepal

面積 14.7万平方キロメートル

人口 2,969万4,614人 (2023年 世界銀行)

人口増加率 2.4% (1995～2000年平均, 国連人口局)

首都 カトマンズ (Kathmandu)

民族 パルバテ・ヒンドゥー、マガル、タルー、タマン、ネワール等

言語 ネパール語

宗教 ヒンドゥー教徒 (81.3%)、仏教徒 (9.0%)、イスラム教徒 (4.4%) 他

※外務省ホームページより



略史

紀元前7～8世紀頃キラート族による統治により国家が誕生したといわれる。西暦300年を過ぎると、北インドのリッチャビ族が王朝を設立。7世紀にはタクリ王朝に移り、チベットとの友好関係を結ぶ。この時代にネパールの文化芸術が大きく開花し、その後のマッラ王朝時代で多くの寺院や宮殿が建造された。マッラ王朝はその後3つの王朝に分裂し、さらに地方にたくさんの王国が誕生。中でも有力だったシャハ家がゴルカ王朝を統べ、プリスビー・ナラヤン・シャハ王は各地の公国を次々に倒し、3王国を従え1769年までにネパール統一を実現。カトマンズに王都を定めた。このシャハ王朝が、2008年まで続いたネパール最後の王朝となる。2008年にギヤネンドラ国王が退位し、連邦民主共和制へと移行された。

ネパールは、標高8,000m級の山を8峰有するなど自然の豊かな国で、日本からも多くの観光客・登山客が来訪するが、未だにアジア最貧国の一つであり、一人当たり所得707ドル (2012年) に留まっている。また、1996年にマオイスト (共産党毛沢東主義派) が武装蜂起し、10年に及ぶ内戦を経験。2006年11月の包括和平合意以降は和平プロセスが進捗しているが、依然、新憲法制定等の重要な政治課題を抱え、政治・社会的に不安定な状況にある。さらに、経済成長を牽引する有望な産業が育たず、道路、電力などのインフラの整備レベルが低いことが経済成長のボトルネックになっている。

新憲法に基づき2017年から連邦制 (連邦政府・州政府・地方政府の三層構造) に移り、新しく再編された村や市に教育や医療・福祉などの行政サービスが任されるようになった。しかし、国土の大半を占める丘陵・山岳地域ではそうしたサービスが十分に行き渡っておらず、雇用機会は少なく、自然災害の影響も受けやすい。厳しい家計を助けるために働き学校に継続して通えていない子どもも多い。ほか、一部地域では、女性に対する厳しい社会規範が慣習として続いている。

※出典：

・JICA ウェブサイト「ネパール」

・ワールドヴィジョン「ネパール」

訪問地

カトマンズ渓谷、ポカラ近辺



東、西、南の三方をインドに、北方を中華人民共和国チベット自治区に接する、西北から東南方向に細長い内陸国。界最高地点エベレストを含むヒマラヤ登山の玄関口としての役割を果たしている。

■ ツアーメンバー



Photo: T. Greenfield-Sanders

五嶋みどり (ヴァイオリン) Midori

大阪生まれ。10歳で渡米。同年ニューヨーク・フィルとの協演で楽壇デビュー。以来世界の名だたる音楽家と共演を重ね、40余年を数える。20歳で非営利社会活動団体「Midori&Friends」(米国NY)と「ミュージック・シェアリング」(日本)を設立。使用楽器はガルネリ・デル・ジェス「エクス・フォーベルマン」(1734年作)。現在、カーティス音楽院等で教鞭をとる。国連ピース・メッセンジャー。

<https://www.midori-violin.com/>

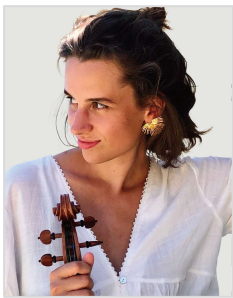


Photo: Lucia Alonso

エレノア・デ・メロン (ヴァイオリン) Ellinor D'Melon

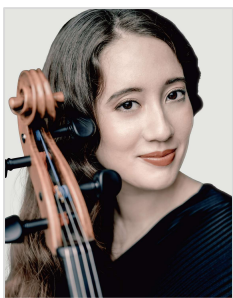
ジャマイカ生まれ。キューバ人の両親のもとで2歳からヴァイオリンを始める。11歳よりソフィア王妃高等音楽院(スペイン)でザハール・ブロン教授に師事。世界の由緒あるホールでロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団(イギリス)、マリンスキー劇場管弦楽団(ロシア)等と共演を重ねる。演奏楽器は匿名貸与された1743年製のG.B.グァダニーニ。

<http://ellinordmelon.com/>



シャーロット・スティッケル (ヴィオラ) Charlotte Stickel

ドイツのカールスルーエ出身。5歳で音楽の勉強を始める。現在はヴィオラをロサンゼルス・コルバーン・スクールでタチアナ・マスレンコ教授に師事しつつ、ハイデルベルクなどのアンサンブルでソリストとして、また、コルバーン管弦楽団にも参加中。2018年、ピアノとのデュオでヴァイマル・フンメル協会特別賞をはじめ、ユーゲント音楽祭、シモン・ゴルトベルク国際コンクールなどで上位を獲得するなど、受賞歴多数。欧米の著名なフェスティバルに参加し、音楽教育にも情熱を注ぐ。

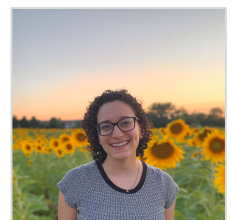


© Andrej Grile

アネット・ヤコヴチッチ (チェロ) Annette Jakovcic

ラベル、P.カザルス、L.クラシック、G.メニューイン等の音楽祭に参加。ピエール・アモイヤル、パヴェル・ヴェルニコフ、ジェラルド・ブーレと共演。プラウマン&フィショフの室内楽コンクール最高賞受賞。フリッツ・ライターマイヤー弦楽コンクール優勝。ニューイングランド音楽院、ザルツブルク・モーツァルテウム大学卒業。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のアカデミープログラムに属し、ローレンス・レッサー、クレメンス・ハーゲン、ニコラ・アルトシュテットに師事。

<https://www.annettejakovcic.com/>



マヤ・ウィリアムス(コーディネーター) Maya Williams

アメリカのシカゴ出身。5歳でピアノを、10歳でヴァイオリンを始める。フロリダ州ネーブルズ・フィルハーモニックのユース・ミュージック・プログラムのコーディネーターを務めた。今後とも若いアーティストの指導や、音楽を通じて築かれる人と地域社会との関わりに携わっていくことを希望している。

活動概要

活動期間	2024年12月16日～12月27日
訪問施設数	19か所
参加者総数	約2,000名
主催	認定NPO法人ミュージック・シェアリング
助成	日本万国博覧会記念基金（（公財）関西・大阪21世紀協会）
協賛	キッコーマン株式会社、株式会社U A C J、花王株式会社、株式会社ダイナトレック
協力	国連ネパール、在ネパール日本国大使館（はじめ全訪問施設関係者の方々）
演奏曲	モーツァルト：弦楽四重奏曲 第22番 変ロ長調 K.589 メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲 第4番 ホ短調 Op.44-2

スケジュール

ドイツ ベルリンにてリハーサルを重ね、ネパール入国後リハーサルを継続。ICEPカルテットはカトマンズとポカラを訪れ、11日間のツアーを終了しました。

日程	訪問地	No	訪問先
12月16日	ネパール カトマンズ到着		
	カトマンズ	1	Food For Life Nepal (児童養護施設)
12月17日	カトマンズ	1	Kathmandu University Music Department (音楽学校)
	カトマンズ	2	Hopeful Home (児童養護施設)
12月18日	カトマンズ	1	Koshish (女性メンタルヘルスケア施設)
	カトマンズ	2	Naad Sangeet Pathshala (音楽学校)
12月19日	カトマンズ	1	Kanti Children's Hospital (病院)
12月20日	カトマンズ	1	Koseli School (学校)
	カトマンズ	2	Dilasha Community Center (学校)
12月21日	カトマンズ	1	Kathmandu Music Institute (音楽学校)
	カトマンズ	2	Ama Ghar (児童養護施設)
12月22日	ポカラに移動		
12月23日	ポカラ	1	CHILDREN – Nepal (児童養護施設)
	ポカラ	2	INF Green Pastures Hospital (病院)
12月24日	ポカラ	1	Empowering Women of Nepal (女性活躍支援)
	ポカラ	2	Shree Amar Shingh Model Secondry School (視覚障がい者生活支援施設)
12月25日	ポカラ	1	Children Welfare Scheme Nepal (児童養護施設)
	ポカラ	2	Kopila Nepal (女性子どもの人権保護)
12月26日	ポカラ	1	Shree Mahendra Jana Sahayog Basic School (学校、NPO法人ピーク・エイドが支援)
12月27日	カトマンズ	1	United Nations Coflict Victims (国連)
		2	Muscular Dystrophy Foundation (筋ジストロフィー支援)

■ 各訪問先と活動の様子

●12月16日【カトマンズ】

1. Food For Life Nepal

フード・フォー・ライフ・ネパール（FFL）は政府や宗教団体に属さない組織で、カトマンズの26校にて1万人以上の生徒に栄養価の高い昼食を無料で提供し、子どもたちの飢餓撲滅に取り組んでいます。

<https://foodforlife.org.np/>

- 参加者：約1,955名の生徒と約60名のスタッフ。
- まずは見学（食事の準備と配達のキッチンツアー）をいたしました。
- その後FFLの援助を受けているTilingtar中等学校で、7年生と8年生を対象に2回、9年生と10年生を対象に2回、計4回の演奏がなされました。
- 最後に数人の学生とスタッフがネパールの歌を歌いました。



1. 楽器の演奏に「触れる」体験の様子

2. Kathmandu University Music Department (カトマンズ大学音楽学部)

ロチャン・リージャル教授率いるカトマンズ大学音楽学部は、音楽の研究、実践、パフォーマンス、および音楽の文書化を通して、ネパールの音楽伝統を保存し、発展させています。これは伝統的なネパール音楽を生き生きと繁栄させ続けてきた教授の功績です。

2015年の地震で破損した敷地内にあるトリプレシュワール・マハデブ寺院は、現在修復作業が進行中です。音楽学部は新施設となり、ナショナルセンターとしての役割を果たしています。

参考：ネパール音楽の遺産を保存し、促進すること。

<https://www.kumusic.edu.np/kumusic/>

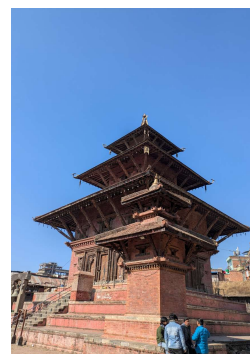
- この訪問の特徴は、カトマンズ大学音楽学部の生徒たちと学科員が、伝統的なネパール音楽の野外演奏にてICEPカルテットを歓迎し、対してカルテットは西洋のクラシック音楽を紹介するといったミュージシャンによる文化交流です。
- 2人のネパール人ミュージシャンが自分たちの楽器（ギャリン：ダブルリード楽器、マダル：打楽器）の紹介と実演した際には、ほか大学生も参加し、カルテットメンバーとの質疑応答が盛んに行われました。
- リージャル教授による、ヒンドゥー教のトリプレシュワール・マハデブ寺院の歴史や、修復努力、そしてネパール音楽の伝統のプレゼンテーションもなされました。
- このコラボレーションは2016年来2度目です。



2. カトマンズ大学音楽学部で演奏



ロチャン・リージャル教授を囲んで



トリプレシュワール・マハデブ寺院

●12月17日【カトマンズ】

3. Hopeful Home

カトマンズ郊外に位置するホープフル・ホームは、避難所であり、食料が受給され、教育も受けられる場所です。親の死、貧困、育児放棄など、過酷な過去を持つ、5歳から19歳の子供たちが入居し、あたたかく愛情のある環境に包まれています。彼ら彼女たちのほとんどは、政府機関を通じてホープフルホームに入所してきます。

<https://hopefulhomenepal.org/>

- 約18名の子供たちと6名の大人の前で演奏しました。
- 各楽器は子供たちが関心をもつよう魅力的に紹介され、子どもたちは、さまざまな楽器や音楽家を間近に感じながら、実際に弓を使ってみるなど楽器について直接学ぶ機会に感激していました。



3. 直に楽器に触れたり、弓の使い方を教わる

4. Koshish

国内で唯一存在する、ネパール全土の女性を対象にメンタルヘルス・サービスを提供する施設です。女性たちの多くは人身売買、育児放棄、ホームレスなどで心に傷を負った過去をもっています。彼女たちはカトマンズ郊外にある住居型のケア施設にて共同生活を送り、かつて同じく入居していた人たちが大半を占めるスタッフから献身的なケアと、社会で直面する課題について対応できるよう科学的・医療的治療を受けています。

<https://koshish.org.np/>

- カルテットは温かい笑顔と熱気で歓迎されました。
- 公演前の短いリハーサルのもと、まず女性たちが伝統的なネパールの歌を歌い、続いて音楽への愛情を共有し、意見交換がなされました。
- カルテットは、ネパールにおける精神保健と社会福祉の簡単な歴史、そして社会的に困窮している女性特有の問題についても学びました。



4. 演奏のほか女性たちが伝統的なネパールの歌を合唱

●12月18日【カトマンズ】

5. Naad Sangeet Pathshala

ネパールのタブラ奏者サリタ・ミシュラが設立したナード・サンギート・パシャラ (Naad Music School) は、カトマンズの100人以上の恵まれない子供たち (主に女の子) にタブラ、フルート、ギター、声楽の無料レッスンを提供しています。学校の使命は、若者が自尊心と自信を築くことを助けながら、音楽の喜びを共有することです。

女性が音楽を追求することが珍しかった時代にタブラを習い始めたサリタは、72人のクラスで唯一の女子学生となり、ネパール音楽の先駆者として従来の伝統的な壁を打破しました。

Naad Sangeet Pathshalaは、Shikshya Foundationの支援を受けています。

<https://shikshyafoundationnepal.org/works2/naad-sangeet-pathshala/>

- カルテットはタブラとフルートの伝統的なネパール音楽になじんでいる生徒たちのために西洋音楽を演奏しました。
- メンバーと学生は、さまざまな学習方法や音楽ジャンルについても話し合いました。こうした情報交換や質疑応答を通じて絆が深まりました。



5. 演奏のほか質疑応答などして交流

●12月19日【カトマンズ】

6. Kanti Children's Hospital

協力：日本大使館

ネパール唯一の小児科病院カンティ小児病院は、日本大使館などの支援を受け無料で医療を提供しています。8つの病棟に365床のベッドを設置し、緊急医療、入院・外来医療、検査サービスなど、幅広いサービスと質の高い医療が提供されています。

<https://kantichildrenhospital.gov.np/en>

- カルテットメンバーは患者一人一人の前や、スタッフや家族の前で演奏しました。
- 患者のベッドサイドでパフォーマンスもなされれば、病棟全体のコミュニティ・コンサートも行われました。
- 家族のための待合室、ソロ(伴奏なしのレパートリー)とインルーム・デュオも実施されました。
- 350人以上が参加し、院内には喜びと安らぎの時が流れました。



6. 病室での演奏

7. Koseli School

コセリ・スクールはカトマンズのスラム街にある子供たちのための学校です。幼児期から6年生まで、社会から疎外されたコミュニティの生徒たちに、学校は温かい食べ物、衣類、衛生サービス、質の高い教育を提供しています。

<https://nepalkoseli.blogspot.com/>

- 各学年ごとにパフォーマンスを行い、合計120人以上の生徒が参加。
- 演奏の後、カルテットと全生徒が学校の中庭に集まり、数人の生徒による伝統的な衣装でのネパールのダンスと音楽のおもてなしを受けました。
- カルテットメンバーは学校で作られたスパイシーで美味しい昼食をご馳走になりました。



7. 好奇心旺盛な子どもたちと

●12月20日【カトマンズ】

8. Dilasha Community Center

ディラシャー・コミュニティセンターは子供たちが教育を受け続ける際に直面する障壁を減らすために活動しています。山岳地帯に位置するため、子供たちが片道数時間歩いて通学することも珍しくありません。ディラシャーの取り組みとして、学習指導と生活技能教育プログラムが放課後に各1時間ずつあり、子供の人権などのトピックスをもカバーしています。

<https://consolemission.org/>

- カトマンズ渓谷の曲がりくねった山道を長いドライブの後、一行は人里離れた山村にあるディラシャーのコミュニティセンターの一つに到着しました。
- 子供たちの目線の高さに合わせるためカルテットも床に座り演奏したことで、親密で魅力的な空気に包まれました。
- 好奇心旺盛な村人たちも集まり、小さなコミュニティセンターはいっぱいになり、戸口の外から耳をそばだてている人もいました。



8. 床に座り子どもたちと同じ目線で演奏

●12月21日【カトマンズ】

9. Kathmandu Music Institute

カトマンズ音楽院では、ネパールの伝統楽器のほか、バイオリン、チェロ、ピアノなどの西洋楽器のレッスンが行われています。こうすることで、学校の創設者であるサビン・ムニカーは、ネパール音楽と西洋の楽器の統合に情熱を注いでいます。
<https://kathmandumusicinstitute.com/>

- カルテットと、生徒と教師たちは互いに演奏を披露しました。
- 音楽学院の選曲には、ヴァイオリン、キーボード、打楽器などの西洋楽器用に編曲されたネパールの伝統音楽が含まれていました。
- ブレイクアウトセッションの提案がなされ、カルテットメンバーによるレッスンや、西洋の楽器に関する質問にもこたえました。



9. 直接楽器に触れながらのレッスン

10. Ama Ghar

アマ・ガルは、カトマンズのすぐ南に位置する児童養護施設です。4歳から18歳の、大きなトラウマや悲劇に直面している子供たち45人が生活していました。シェルターを備えた育成環境があり、食料品、衣類、ケアなどは、あたたかく寛容で家族的な強い絆を育んでいます。
<https://ama-foundation.org/>

- カルテットは子どもたちとスタッフのために演奏しました。また各々の楽器を紹介し、ユニークな音色の実演もしました。
- その後、子どもたちがダンス、ギター、歌など、自分たちで企画したプログラムを披露しました。
- 最後はICEPカルテットを含む全員がネパールのポピュラーソングに合わせて一緒に踊り、訪問は楽しく終わりました。



10. 演奏に聴き入る子どもたち

●12月23日【ポカラ】

11. CHILDREN – Nepal

チルドレン・ネパールはポカラに拠点を置き、青少年に焦点を当て、教育、医療、職業訓練などの幅広いプロジェクトを通して、社会の片隅で暮らす多くの不公平、危険にさらされているネパール人の生活を改善するよう努めています。チルドレン・ネパールが作成および販売する手工芸品は、フェアトレードであることが保証されています。
<https://childrennepal.org.np/>

- カルテットは3組の前で演奏しました。
- まずはチルドレン・ネパールが支援するポカラのスラム地区にある学校での演奏。教室をまわり生徒たちにより近くで音楽体験してもらいました。
- 学校での演奏後はチルドレン・ネパールのオフィス・キャンパスに移動し、ITと職業クラスと保護者グループの前で演奏しました。



11.チルドレン・ネパール関連の学校

12. INF Green Pastures Hospital

ポカラのグリーンパスタース病院は、60年近くにわたりハンセン病の患者を治療してきました。年間約11,000人の患者を治療するなど、地域の主要なハンセン病およびリハビリテーション病院であり、脊髄損傷やその他の障がいを持つ患者の治療も行っています。患者の経済状況に関係なく、すべての人を診ています。

<https://www.inf.org/our-work/green-pastures-hospital/>

- カルテットメンバーは、病院の歴史とネパールのハンセン病の状況について説明を受けました。
- 元患者のキッチンスタッフの女性が料理した美味しい昼食をとりながら、ハンセン病への偏見と文化の課題について話し合いをしました。
- カルテットメンバーは、患者、家族、スタッフの前で演奏し、プログラムのオフィシャルなパートが終了した後は、患者ひとりひとりのために即興のミニパフォーマンスを行い、多くの人々を喜ばせました。



12. 患者、家族、スタッフの前で演奏

●12月24日【ポカラ】

13. Empowering Women of Nepal (EWN)

Empowering Women of Nepal (EWN ; ネパールの女性のエンパワーメント) は、ネパールの女性と女の子たちの生活をアドベンチャースポーツと観光業界を通して改善することを目指しています。1999年に先見の明を持つ3人のネパールの姉妹が基金提供しました。トレッキングガイドになるための訓練や、英語、衛生面の学習、ホームステイ管理などの教育を実施しています。

<https://ewn.org.np/>

- 女性のトレッキングガイドや研修生のために演奏がなされました。
- ネパールの2つの地域の女性達が伝統舞踊を披露したり、文化遺産を紹介してくれました。



13. 女性達が伝統舞踊を披露したり演奏を聴いたり

14. Shree Amar Shingh Model Secondry School

シュリー・アマル・シン・モデル・セカンダリー・スクールでは、生徒の視覚障がいの程度、有無に関わらず、質の高い教育を受けられます。広範なブラインドセクションは、ネパール盲人協会(NAB)の支援を受けています。視覚障がいのある生徒はスタッフのサポートが提供されるキャンパスに住んでいます。

<https://amv.edu.np/><https://amv.edu.np/>

- 視覚障がいのある生徒とスタッフのために演奏がなされ、生徒らは楽器に触ったり音を出してもらったりなどの楽器体験をしました。
- その後は生徒たちがパーカッションで演奏し、自分たちの音楽を誇らしげに披露しました。



14. 楽器に直接触れて奏でるなど貴重な体験を

●12月25日【ポカラ】

15. Children Welfare Scheme Nepal

チルドレン・ウェルフェア・スキーム・ネパール（CWSN）は、ネパール人の若者の生活を向上するために、家族、コミュニティ、また子供同様に導く活動をしています。その多くの取り組みの中で、CWSNは、救助されたストリートボーイズのための児童養護施設を運営し、食料や住居を提供するなどサポートをしています。
<https://www.cwsn.org/>

- クリスマスの日、ICEPカルテットはネパールの児童福祉制度のボーイズホーム本部で演奏し会場は興奮に包まれました。
- 400名(全生徒とスタッフ) が参加しました。
- 少年たちは演奏やアートワークを披露するなど、創造性に繋がる思い出深い祭典となりました。



15. 子どもたちが見守る中で開催されたコンサート

16. Kopila Nepal

コピラ・ネパールは子ども、女性、障がい者の権利を保護しています。虐待、精神疾患、人身売買などのトラウマを経験した女性とその子どもたちのために、セーフハウスと緊急センターを運営しています。
<https://www.kopilanepal.org.np/>

- 3つの避難所から女性たちが主要施設に集まり、ICEPカルテットの演奏に参加しました。
- 聴衆は熱狂的に応え、伝統的な太鼓であるマダルの伴奏でネパールの歌を歌が歌われました。
- 約30人の女性と子供たちが参加しました。



16. 3つの避難所から集まった女性と子供たちが参加

●12月26日【ポカラ】

17. Shree Mahendra Jana Sahayog Basic School

協力：NPO法人ピーク・エイド

ポカラ郊外の田舎にある小学校シュリー・マヘンドラ・ジャナ・サハヨグ・ベーシック・スクールは、登山家の野口健氏が日本で設立したNPO法人Peak Aid Japanが支援しています。Peak Aidは学校の再建、教師の訓練、内容の濃いカリキュラムの実施を支援し、村全体に活力を与えています。

- 一行はポカラから車で約1時間の移動を経て学校近くの村に到着しました。
- 生徒や前校長先生のパル・バハドゥール・ゴダール氏に温かく迎えられ演奏しました。
- 生徒らはパフォーマンスに魅了され、楽器を間近で見ることができ感激していました。
- 音楽とともに語られたウィリアム・テルの物語は、自分たちの学校の再建に重要な役割を果たした地元の英雄タパ・ゴダール・ウパカルと結びつき、子どもたちの心に深く響きました。



17.ポカラ郊外の田舎道を楽器を持ち移動



楽器に直接触れて感激する生徒ら

●12月27日【カトマンズ】

18. United Nations Conflict Victims

あらゆる紛争において数え切れないほどの犠牲者が、声なき声のまま残されており、これは正当化されることがない人権侵害です。ネパール内戦では、10年間で1万3,000人以上の命が奪われ、1,300人が行方不明となり、拷問や紛争に関連した性暴力の被害者は未知数と推計されています。和平合意の公式調印から8年が経過した現在でも、6万6,000件以上の紛争関連事件が未調査・未解決のままです。

国連はネパール政府とネパール共産党の紛争を終結させる上で、武器と軍隊の監視機関を設置し、和平交渉の場を提供するなど、重要な役割を果たしましたが、これからも犠牲者の声と苦しみを忘れてはなりません。

国連ピース・メッセンジャーの五嶋みどり一行来訪を記念して特別にイベントが企画されました。国連は戦争被害者を招き、彼ら彼女らのその後の歩みを分かち合い、今直面している課題を共有したことは癒しとサポートになったことでしょう。

- イベントは、国連ネパールのハナア・シンガー・ハムディ女史と国連ピース・メッセンジャー五嶋みどりの挨拶で始まりました。
- その後ICEPカルテットによる演奏がなされ、犠牲者とその代表者たちによる報告や個人的な証言がなされました。言うまでもなく会場は感傷的かつ喪失感に溢れ、女性たちの生々しくつらい話も盛り込まれていました。権利、尊厳、愛が、公式には認識されていないままの喪失感。そのような中でも出席者の間では信じられないほどの一体感と一種の“安堵”が感じられました。



18.出席者の間で流れた一体感とある一種の安堵感

19. Muscular Dystrophy Foundation

筋ジストロフィー財団-ネパール(MDF)は、ネパール全土の筋ジストロフィー患者を支援しています。17歳の息子を筋ジストロフィーで亡くしたカルナ・ポカレル女史によって設立されたこの団体は、在ネパール日本大使館の支援をも受けて、患者に必要な不可欠なサポートをしています。

<https://mdfoundation.org.np/>

- カルテットメンバーはカルナ・ポカレル女史はじめ多くのスタッフと患者から温かく迎えられる中演奏を披露しました。
- 演奏終了後、ジストロフィー患者からメンバー一人一人にスカーフが贈られました。



19.スタッフと患者から温かく迎える中演奏

おわりに

2016年約10年ぶりのネパール訪問を通じて、音楽が人々の生活に浸透し始めていることを目の当たりできたことは大きな喜びでした。また、様々な困難にあり耐えてきた人たちが、寛大な気持ちで私たちを受け入れてくれたことに感謝いたします。人間の精神の回復力を体現している勇気ある彼ら彼女らと、音楽を通してさらに繋がりを深められた意義は本当に大きかったです。

今後とも音楽が人々の高い志を育み、希望を支え、やりたいことをやろうとする気持ちを鼓舞し続けることを願います。最後に、このツアーでは、ネパールで活動する多くの団体からの協力を得て、親善と友愛の思いをこめてクラシックの生演奏を届けることができました。あらゆる出会いに心から感謝するとともに、すべての協力者の皆様に改めて御礼申し上げます。

認定NPO法人

ミュージック・シェアリング

〒102-0083 東京都千代田区麹町2丁目5-18 半蔵門ハウス601
TEL:03-6256-9733 E-mail:info@musicsharing.jp
<http://www.musicsharing.jp>